

教育出版 高校音楽Ⅱ改訂版 Music View (音Ⅱ 308)

年間指導計画・評価規準例

芸術科「音楽Ⅱ」 シラバス	単位数	2単位	担当者	
	学科・学年・学級		科 第 学年 組	
	使用教科書・副教材等		高校音楽Ⅱ改訂版 Music View	

1 教科の目標（講座のねらい）

- ・「音楽Ⅰ」の学習を基礎にして、生徒一人一人の能力・適性、興味・関心等に応じた学習活動の充実を図り、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばす。
- ・音楽の諸活動を通して、生涯にわたって音楽を愛好していこうとする心情を育てる。
- ・日本及び世界の様々な音楽にふれ、楽曲そのものだけでなく、文化的・歴史的背景などを踏まえた広い視野をもって音楽に目を向け、音楽文化への理解を一層深める。

2 育てたい生徒像

「音楽Ⅱ」では、「音楽Ⅰ」の学習経験を基盤として、生徒一人一人が音楽を永続的に愛好する心情をはぐくむとともに、生涯にわたって豊かな音楽活動をするための基になる力を確実に身に付けさせたい。そのため、生徒自らが感性を働かせて思考・判断しながら表現する場の設定や、根拠をもって自分なりに批評するなど、主体的に音楽とかかわりながら鑑賞する場の設定を工夫する。

具体的には、第一に歌唱や器楽の学習活動において独唱(奏)、小アンサンブル、合唱(奏)などの様々な規模・形態の表現活動を取り入れる。教材に応じて表現方法や規模・形態を選択できる場を設け、自分の目指す音楽表現をするための課題を主体的に解決できるよう支援したい。第二には、表現領域の学習において一人一人が音楽について思考・判断したことを様々な方法で表現する場を設ける。音楽を形づくっている要素やそれらの働きを知覚・感受に基づく音楽表現はもちろんのこと、音による表現だけでなく、調査研究やレポート発表、討論などの課題も取り入れ、音楽との多様なかかわり方に関心をもたせたい。また、鑑賞領域の学習では、曲や演奏について自分なりに価値判断し、言葉や文章などで表す活動を行う。第三には、世界の様々な音楽や日本の伝統音楽などにこれまで以上に幅広く親しませ、諸文化とのかかわりなど広い視野で音楽を捉えられるような題材を設定する。音や音楽を表現したり鑑賞したりする音楽の学習や楽しみ方に加えて、楽曲の背景となる文化や社会とのかかわりといった多様な視点からの学習や楽しみ方を追究させたい。

これらの取り組みによって、生徒一人一人が生涯にわたって音楽を愛好する心情や音楽文化を尊重する態度を育み、音楽とのかかわりを自らの力で開拓していくことができるようになることを考える。

3 授業の内容と学習方法

- (1) 日本の伝統音楽や世界の様々な音楽について、文化的・歴史的背景の学習とともに、発声の特徴を生かして歌うなどの具体的な音楽表現を通して理解を深められるようにする。
- (2) 音楽を形づくっている要素の働きが楽曲の特徴にどのような役割を果たしているかを一層理解できるように、表現教材の学習と創作や鑑賞の学習の有機的な関連に配慮して題材を構成する。
- (3) 音楽文化についての理解を深めるために、音楽が絵画などの諸芸術や他の文化と互いにどのように影響し合って発展してきたかを考えられるような題材を構成する。
- (4) 表現教材の学習にあたっては内容に応じて選択制を取り入れ、「音楽Ⅰ」で身に付けた創造的な表現の能力を個性豊かな表現の能力に伸長できるように独唱(奏)、小アンサンブル、合唱(奏)などの様々な規模・形態の表現活動を取り入れる。
- (5) 音楽との多様なかかわり方に関心をもたせ、思考・判断し、自らの考えを伝える力を伸ばすため、長期休業中に課題レポートを課す。

